

## みんなのひろば

Message



▼北淡放課後子ども教室についていなあと思いました。私が小学校の時は無かったので、放課後少しだけ遊んで家に帰るので親が帰ってくるまで暇やし、さみしかったです。(10代)

▼私が10代の頃の日本は高度成長期の真ただ中。外で遊ぶ子どもが多い中、仕事で帰りの遅い親を家で待つ子どもは「かぎっ子」と呼ばれ、からかわれたものです。子ども教室の活動を支えるボランティアの皆さんの驚くほどの熱心さに、最初は不思議にさえ感じていましたが、これは、もしかすると子どもたちにさみしい思いをさせたくない一心からなのでは…。そんな気がしています。

▼昔は、調べものは辞書を引いたり人に聞くという事が当たり前でした。今は、ネット、SNS、スマホなど、知りたい情報がすぐにピンポイントで「知る」ことが出来ます。とても便利になりました。ですが、自分の興味のある

情報だけではなく、色々な人の考えや思いを知る事が出来る広報(人権)はとても大切な情報源だと思えます。コラム「終活」とても心に残りました。よかったです。(30代)

▼ネットやスマホ…あれば便利から、なくてはならないものと言われる存在となりましたね。「すぐにピンポイントで知る」ことができるのがこれら電子媒体の最大のメリット。残念ながら、いささかスピードに欠ける「紙」のまるごとじんけんですが、多くの人の思いを多くの人に届ける広報紙として、様々な情報をお届けしていきます！

▼コラム人権の眼「終活」を読んでも「ありがたい」の反対語である「あたりまえ」について考えてみた。自分の身の周りの様々な「あたりまえ」は本当に「あたりまえ」なのか？自分が「あたりまえ」と思っている出来事はすべて誰かの支えにより成り立っているのではないかと。そう

考えるとあたりまえの事もすべてありがたいと感じられるように思う。(50代)

▼自分にとっての「あたりまえ」や「ふつう」のことが、必ずしもそのまま他人には当てはまらない。多くの人はそう思っているだろうし、少なくとも大人であれば、それがあたりまえだと理解できるはず…と私は思っています。でも、大多数の大人たちの「あたりまえ」と「ふつう」に翻弄され、苦しんでいる子どもたちが現実存在しています。「あたりまえ」と思っている出来事はすべて誰かの支えにより成り立っているのでは…」より多くの大人がこう思い、子どもたちと接してもらえれば…。そう願わずにはいられません。

### 《メッセージをお寄せください》

クイズ応募ハガキ、FAXやメールでお知らせください。  
TEL 0799-64-2567  
FAX 0799-64-2528  
Eメール: awaji\_jinken@city.awaji.lg.jp

### くらしのトピックス⑱ 淡路市社会福祉協議会

シリーズ③

#### 「ひきこもり」を考える

前号では、昨年、内閣府の発表した推計を淡路市の人口に当てはめると、市内で400人近い人が「ひきこもり」状態にあるということや、市内においても「淡路市ひきこもり問題に係る検討委員会」を通じて少しずつ取組を進めていることについてお話をしました。

先日、ひきこもり支援で成果を上げている秋田県藤里町への先進地視察に参加しました。この研修を通して、ひきこもっている人に特化した支援だけでなく、地域ぐるみで多くの人に「役割」や「やりがい」が生み出される活動が必要であるというのと、本人が「やってみたい」気持ちになれる多様な活動メニューの開発が必要であるということに気づきました。そのためには、地域の皆さんとこの問題を考える機会を作り、一人ひとりの思いを受け止め、その思いが実現できるような支援の仕組みが必要だと感じています。(次号につづく)

### ぼいん手話!!

第47回

手話は、ろうあ者が日常生活で使用しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活等を紹介いたします。



「得意」  
立ってた2指(親指と小指)の親指側を鼻につけ、前方斜め前へ出す。

#### ろうあ者の日常生活を知ろう⑳

先日、運転免許証の更新に行ってきました。講習の動画には、前回の更新時にはなかった手話通訳が付いていたのです。映像と手話通訳を同じ画面で見ることができ、内容がよくわかりました。これから普通のテレビ番組にも手話通訳が付いたり手話で話す人が出演する機会が増えたりすれば、情報も得やすくなり、もっともっと楽しめそうです。

協力…淡路聴力障害者協会  
手話サークル津名